

ICT ニュース 2023/10 月

2023/10/17 発行 ICT/感染管理委員会

県内の新型コロナウイルス感染状況は注意報レベルになりましたが、インフルエンザも注意報レベルに入り同時流行が懸念されています。症状もほとんど同じなので見極めが難しいため、自己判断せずに医療機関を受診していくことが必要だと思います。

現在コロナワクチン接種が実施されていますが、インフルエンザワクチン接種も開始されました。どちらのワクチンも重症化を防止できますので、接種しておくとい良いでしょう。



● かぜ、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症の違い

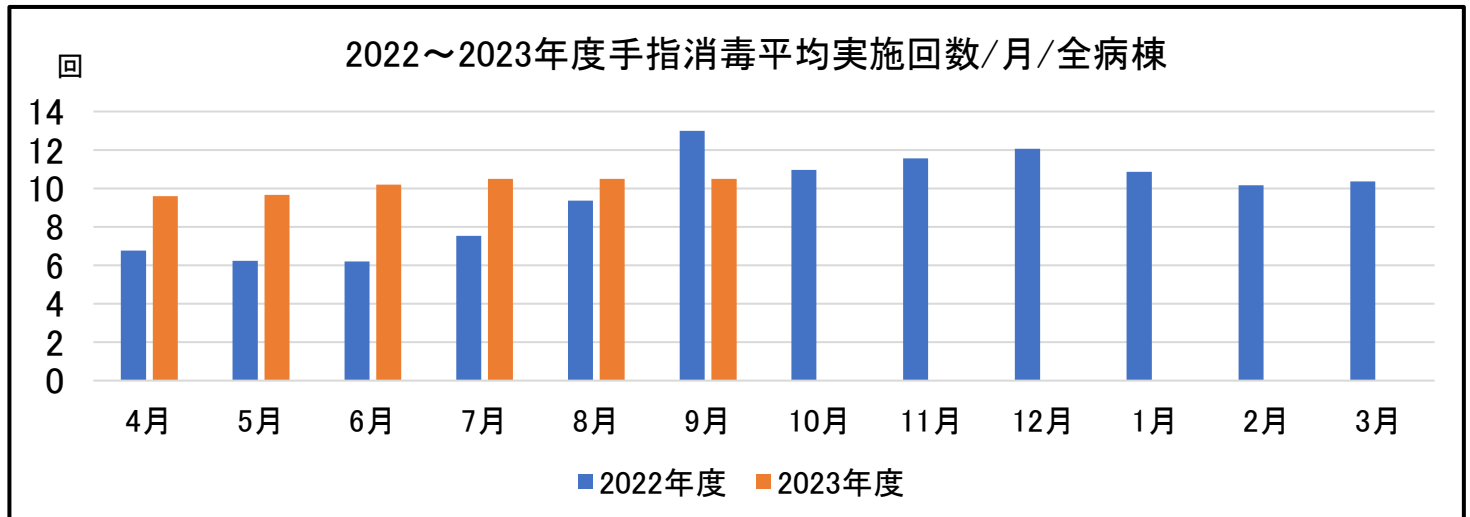
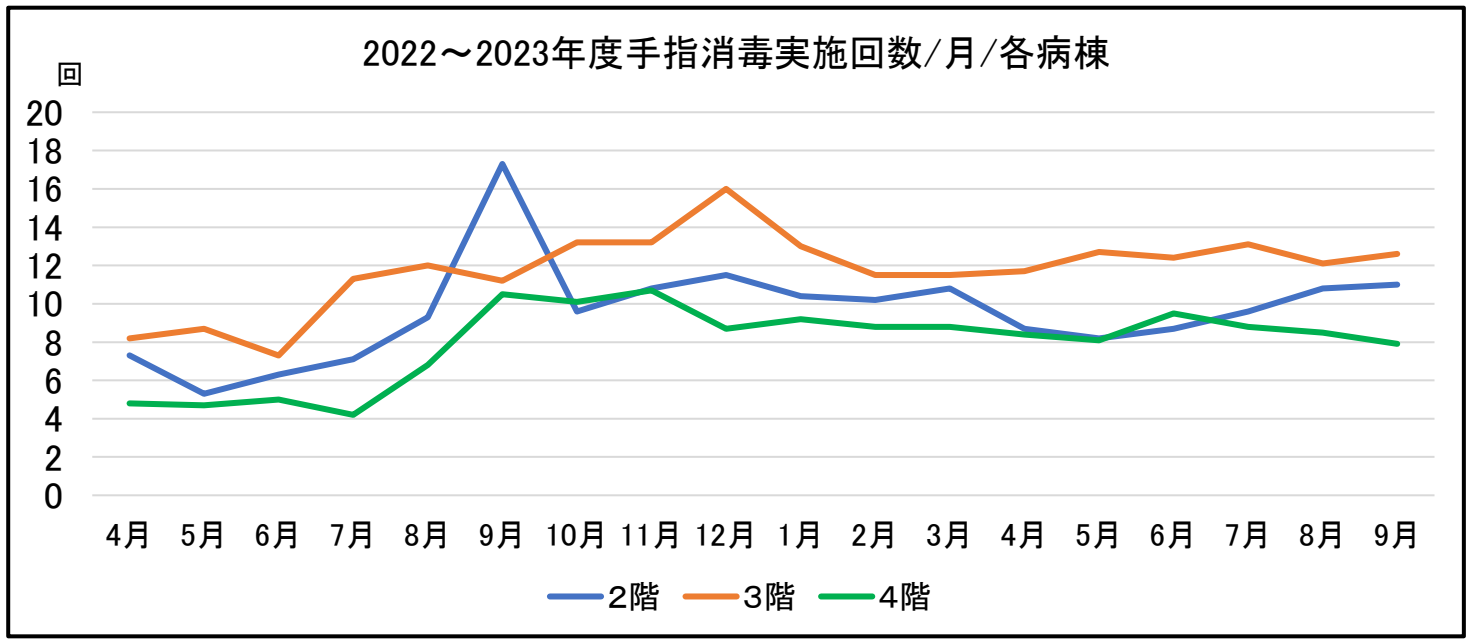
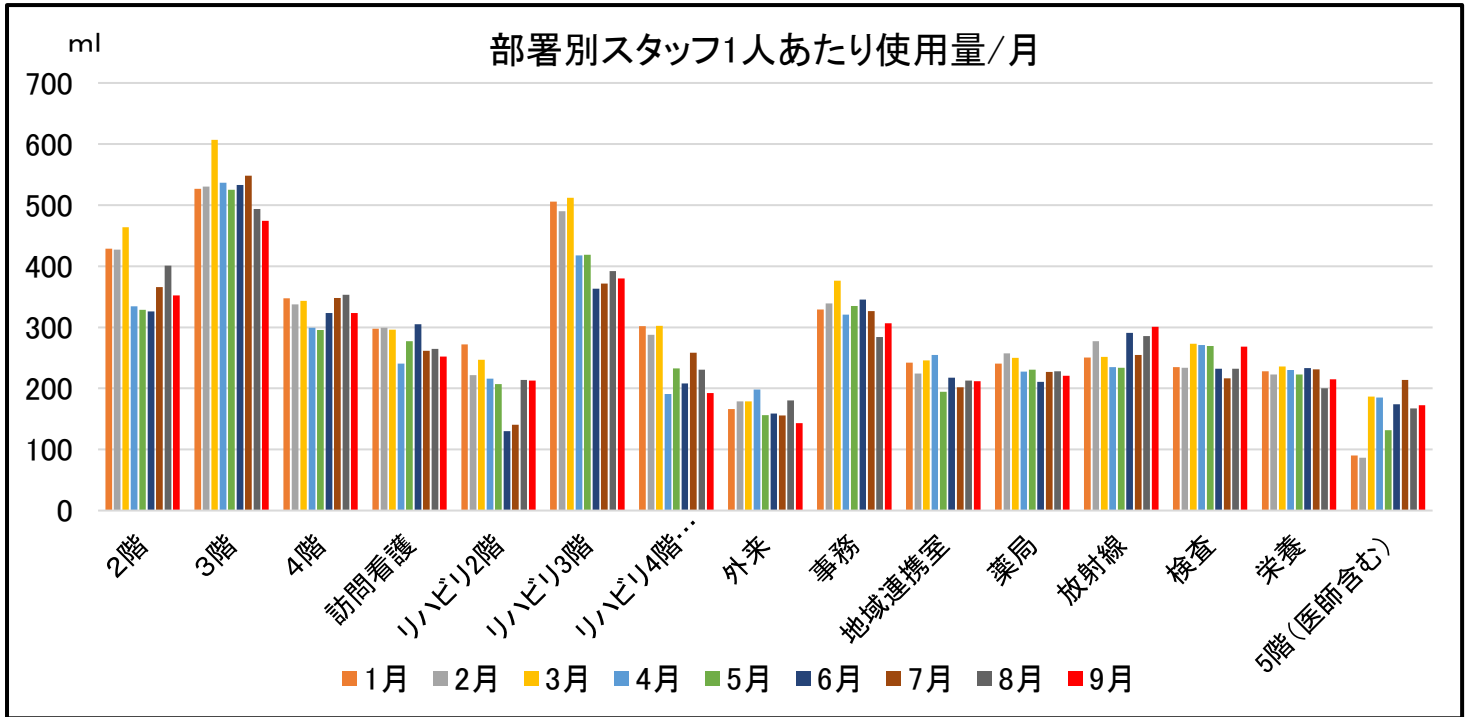
	かぜ	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症
感染性/感染経路	あまり強くない/接触または飛沫感染	発症後 3 日間は最も強い/接触または飛沫感染	非常に強い、発症の 2 日前から発症後 5~7 日間は最も強い/接触または飛沫感染、エアロゾル感染
潜伏期間	およそ 2~4 日	およそ 1~3 日	およそ 3~5 日
症状が現れる部位	鼻やのどなどの上気道が中心	局所の他、全身症状が現れることも多い	局所の他、全身症状が現れることも多い
症状の現れ方	ゆるやか	急激	ゆるやかだが急激に重症化、肺炎を合併することも多い
発熱	37~38℃程度(微熱の場合が多い)	高熱(38℃以上の急激な発熱)	37℃以上の発熱が 4 日以上続くことが多い
主な体調変化	くしゃみ、鼻水、鼻づまり、咳、のどの痛みなどの上気道症状が中心	関節痛、筋肉痛、頭痛、悪寒などの全身症状が急激に現れる	発熱や咳などの初期症状は、かぜやインフルエンザと見分けが付きにくい。他に頭痛、倦怠感、食欲不振、味覚・嗅覚障害
治療方法	対症療法	対症療法に合わせて抗インフルエンザ薬	対症療法、抗コロナウイルス薬、血栓予防の抗凝固薬、免疫の暴走を抑えるステロイド薬を適宜使用し、集中治療や人工呼吸器等
治るまでの期間	多くは 1 週間程度	多くは 1 週間程度	軽症であれば 5~7 日程度



● インフル・コロナ混合ワクチンについて

米バイオ医薬品大モデルナは、10月4日に同社が開発する新型コロナウイルスとインフルエンザの混合ワクチンの初期臨床試験で、ワクチンを別々に接種した時と比べて、両方のウイルスに対する強力な免疫反応を確認したと発表しました。また、混合ワクチンの安全性と忍容性も確認され、副反応の発生率は同社の新型コロナウイルスワクチンと変わらず、2025年の承認を視野に入れています。さらに、10月10日に第一三共が混合ワクチンの開発を始めると発表しました。開発できれば同時流行の際に、より大勢の感染予防効果を高められるほか、医療従事者の負担軽減も期待されます。

★2023年 アルコール手指消毒剤使用量報告



※入院患者数が減少したためか病棟での使用量が減少しました。COVID-19・インフルエンザ・ノロウイルス感染症に備え適切なタイミングでの手指衛生を実施しましょう！